

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770105464		
法人名	アンドライフサービス株式会社		
事業所名	グループホーム北花田 (1階)		
所在地	大阪府堺市北区新堀町2丁119		
自己評価作成日	平成25年9月18日	評価結果市町村受理日	平成25年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>全員が理念を共有し、地域に密着した交流を大切に関係作りを築いている。又、利用者さん、ご家族にとって安心して頂ける施設を目指し、職員一人ひとりがケアの質の向上に向けた取り組みを実践し、安心と信頼に向けた関係作りに取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>10周年を迎えたばかりの事業所であるが全職員は新たな気持でスタートをしている。今回の外部評価に於ける自己評価は3フロアごとに責任者と職員が話し合い皆で作成した。各ユニットは年初めに反省会を開き、リニューアルした行動方針を事業所の崇高な理念に加えて掲げ、日々共有し実践につなげている。前回の目標達成計画に掲げた利用者の重度化に関する課題は事業所の指針書を作成し、それに準じた心のこもった支援が実行され職員の絆が進化している。玄関前の花壇や共用空間に飾られた利用者が手作りした見事な品々は事業所全体が和み温かく包まれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のご家族に安心し、喜んで頂けるサービスの提供という理念を共有し、地域の一員として実践に繋げている。	各フロアに事業所独自の理念及び毎年リニューアルして皆で考えたユニットごとの行動指針を掲示し、職員会議で繰り返し確認し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会からの回覧板を通じて地域行事に参加している。ホームでの業児企画にも地域住民の参加が増え、日常的に交流を深めている。	自治会に加入し、近隣の神社祭りや布団太鼓祭りの行事に積極的に参加している。近隣の幼稚園との交流や事業所主催の夏祭りに近所の方々の参加等、事業所は開設10年地道に地域との関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流や地域参加行事、運営推進会議等を通じて、認知症の人への理解を深め、支援に繋がる内容を地域へ情報発信し、活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームでの取り組み、問題点、経営状況等を報告。それに伴って話し合い、地域の方、ご家族からも多くの意見を得て、サービスの向上に活かしている。	自治会・民生委員・地域包括支援センター・家族・法人経営者等が参加され年6回開催している。報告事項だけでなく、健康面や防災等様々な議論を行い、出席者の意見を真摯に聞き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者一人ひとりの状況を踏まえて、よりよいサービス提供に繋がるよう、積極的に相談すると共に協力関係を築くよう実践している。	市とは頻繁に連絡し、相談や確認をしている。市主催の連絡会や勉強会に積極的に参加している。市の実地指導を受け、適切な助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて身体拘束における身体的、精神的苦痛を全ての職員が十分に理解し、ケアに取り組んでいる。	原則身体拘束は行わない方針を明示し、身体拘束のマニュアルを作成し、研修も行っている。玄関は安全上施錠しているが利用者の外出希望にシグナルに出来るだけ対応するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修を元に職員ミーティング等で学ぶ機会を持ち、全ての職員が虐待について正しく理解し、その防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については公的な専門の方に依頼し、家族会とで勉強会を開催。必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族が不安や疑問に持っていることが反映され、理解及び納得できるよう、十分な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回及び、都度家族アンケートを実施。家族会や運営推進会議等を通して意見交換を実施し、運営に反映している。	管理者は家族に意見があることを認識している。運営推進会議や家族の来訪時に出来るだけ聞くように努めていると共に定期的に家族アンケートを実施している。苦情書が事業所の財産になるように活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、職員ミーティング、日々の申送り等で職員の意見や提案が十分に発揮でき、個々が自身を持てる様、環境作りに努めている。	職員会議で職員は意見や提案を言える環境である。管理者は個別で職員の思いや相談にも対応し、働きやすい雰囲気大切にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の仕事への意欲、思いが反映でき、常に向上心が持てる環境作りを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量やケアの実際を把握し、職員に添った研修を届け、より向上なケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者会議に参加、情報交換、勉強会及び意見交換を実施。グループホームに持帰り、勉強会を開催。サービスの質の向上に取り組みを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者一人ひとりの状況を把握し、声掛け、傾聴、気配りをする事で安心して頂ける様努めている。又企画等で職員1対1でのコミュニケーション時間を作り、より深く信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時には利用者の様子をお伝えし、毎月のお手紙には細かい事や普段の様子をお知らせしたり、いつでも来て頂けるように声掛けをし、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況を見極め、家族に説明、相談。必要があれば他機関でのサービスも取り入れた対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ物を食し、コミュニケーションを図り。掃除、洗濯を一緒に行う事で、暮らしを共にしていると感じて頂きながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加声掛けを行い、参加された時には笑顔で帰って頂ける様、楽しい時間作りに努めている。また、日頃の面会や毎月のお便りでは、出来るだけ細かく本人の状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常会話の中で、出来るだけ家族の名前を出したり、昔の話を聞いたり、記憶が途切れないよう努めている。	入所前に住んでいた近所の知人や友人が来訪され、職員は利用者との会話を支援している。馴染みの場所として過去利用していた店に職員と行ったり、家族の協力で美容室やお墓参りの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者に1つのテーブルに集まって頂き、職員も含め楽しい時間を共有。利用者同士が係わり合いの出来る場所を多く作れるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後においても、状況に合った対応や相談に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状態、会話の中で、希望や意向を聞いて把握し、出来るだけ本人の思いに添えるように、気持ちに近づけるように考慮している。	過去の生活歴を入所時に出来るだけ把握している。家族との繰り返しの会話や日々利用者に寄り添いながら1人ひとりの思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの生活環境や日課の確認をし、把握する事で、本人らしい生活が維持できるように、家族や担当ケアマネージャー、職員、本人からの情報収集、連携を図れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の生活歴やできること・できないことを家族に確認し、それを元に本人の状態を把握した上で、無理のない能力が発揮でき、楽しく過ごせる様努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の様子から変化に気づき、その情報を元にモニタリングを行い、チームとして目標、方法等意見を出し合い、その人に合った新たな介護計画を作成している。	日々のミーティングや月1回の職員会議で利用者ごとの変化をチェックし、3ヶ月に1回のモニタリングにつなげ、6ヶ月に1回は介護計画の見直しを実施している。入退院や急変時は即計画の変更を実施している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その場に居ない職員へも確実に情報伝達ができるように、個人記録として残し、情報を共有し、十戦野介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族が安心して暮らせ、穏やかな暮らしが出来るように必要な時に必要なサービスが提供出来るように、日々取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌体操のボランティアで楽しんでいる。また、消防訓練にて指導を頂き、利用者も参加される事で安心して頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向を尊重し、かかりつけ医へスムーズに受診できるよう、医師との連携を図り、支援している。	家族の協力で今までのかかりつけ医に通院の受診をし、都合が悪い時は事業所で支援している。協力医療機関とは24時間の医療連携をし、月2回の往診も受けている。毎週、歯科医が来訪され適切な治療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの普段の様子を把握する事で、その日の体調の変化等細かい部分にも気を配り、職員同士の情報を共有、交換し、速やかに適切な受診や看護が受けれるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供に努め、入院後も以前と同じ様な、本人にとって安心出来る環境作りに努め、変化の軽減を図れるように面会時等病院関係者と情報交換等関係作りも大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思い、家族が望まれている事を理解し、状態に応じ、随時話し合い、不安なく安心して過ごして頂ける様支援している。又、医療連携を整えて、重度化、看取りに向けて取り組みに努めている。	昨年事業所は終末期の対応指針書を作成し、入所時の重要事項説明書に組み込み、家族の同意を得る体制をとった。最近それに基づいて職員皆で看取りの経験をした。家族や医師と繰り返しの話し合いで職員はとまどいもあったが貴重な経験を積んだ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎日の申し送りや研修の中で、利用者の状態を全ての職員が把握し、速やかに対応出来る様、定期的に取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月に1回自主訓練、年2回総合訓練を行い、動きを確認しながら把握に努めている。毎回訓練後には反省会をし、気付きから新しいやり方を取入れ、次回に向けて活かせる様試行錯誤しながら取り組んでいる。	年2回総合訓練を行っていると共に2ヶ月に1回は別に夜間時を想定した避難誘導訓練等も実施している。訓練終了後は評価を行い、職員の共有を図っている。地震や水害に関する対応も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手に理解して頂けるような言葉かけて対応し、常に相手を敬う気持ちを持った言葉かけに努めている。	年1回は接遇の研修を実施し、利用者のプライバシーを損ねる言葉遣いや態度の大切さを共有している、職員同士が気づいた時は互いに注意しあうように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の表情を把握し、思いやりや希望、生きがいが持てる様話を傾聴し、活気ある生活が出来る様支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の心身状態を把握し、職員と買物や散歩、お茶を飲みに行ったりと気分転換を図り、本人の気持ちを尊重して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服や季節に応じた服装が出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて無理のない様、職員と一緒に準備する事で、よりいっそう食事を楽しみ、美味しく頂ける様支援している。	食材は管理栄養士がいる業者から調達している。昼は利用者が調理・盛り付け・片付けを出来る範囲で手伝い、夜はクックチルを利用している。朝は食材の購入、献立をホーム内で考え提供している。利用者は職員と楽しく会話し、満足されている様子だ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立、栄養のバランスを基本として、個々の体調管理を基本に、少しでも多く水分補給出来るよう、味噌汁、お茶、果物、ゼリー等形状を変えながら摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の出来る力に応じて見守りと介助と声掛けをする。義歯も自分の歯もない方には柔らかい歯ブラシで口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け及びトイレ誘導をし、トイレで排泄が出来る様、自立に向けた支援をしている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、基本は布パンツにて自立で排泄が出来るように支援している。共用のトイレもあるが各居室にも設置しており、利用者は夜間時も含め居室にて職員が誘導されゆっくり排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの排泄パターン、状態等を把握し、水分補給、身体を動かす、トイレに座って頂く時間等を考慮し、便秘の改善に向けた取り組みを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人の意思に沿って入って頂いている。声掛けの仕方、お湯の温度、着替え等全てにおいて満足できる入浴を支援している。	1人ひとりの時間や頻度の希望に添っていつでも入浴が出来るように支援している。湯の温度や着替え等にも利用者の意向を汲んだ対応をしている。大衆浴場への希望にも対応し、満足されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に沿った支援をする事で、休息、安眠に繋がれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬表の作成をもとに、体調の変化等にもすぐに気付く事が出来る様、用法、用量を理解し、服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな事、出来る事をしていく事で、笑顔で過ごせる時間が増えるよう、楽しみを見つけ、一緒に楽しめる環境で過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所前に行っていたスーパー、娘さんの勤める場所等、本人の希望に沿って出かけられるよう努めている。	天気の良い時は買い物や散歩に出かけている。入所前の馴染みの店や交通機関を利用した植物園及び家族との日帰り旅行等特別な外出支援を行っている。レストランでの楽しい食事会も行っている。	利用者の希望に添った色々な外出支援は出来ている。暑い時寒い時に関わらず外の空気に触れる事が出来る散歩を日々のケアサービスに組み込む事が出来ないかの検討を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出掛け、自らお金を支払う事で、買う喜びやお金の大切さを感じられるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って、自ら電話等で連絡出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や玄関等に季節感を取り入れた飾りを置いたりし、暑い日差しの日にはカーテンを閉めたりと工夫をしている。	共用空間の所々に季節感を感じるハロウインの飾りつけ、利用者に習字の先生がおり手ほどきを受けた作品集及び利用者が手作りした見事な置物等を展示している。開設10年の歴史の重みを感じる広くゆったりした共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側にテーブルとソファを置き、中庭を眺めたり、気の合った利用者同士でお話したり、歌をうたったりして過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の空間を大切に出来る様に、馴染みのある家具や家族写真を設置。また、安全に考慮して家具を置く事によって、安心出来る環境作りに工夫している。	居室は使い慣れた馴染みの家具や置物を持ち込み、家族の写真等を飾っている。利用者ごとの安全性を大切に居心地よく過ごせる居室作りを支援している。大きな窓から陽ざしがいっぱい明るく換気を大切にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの生活機能やQOLの向上に繋がるよう、安全に生活を送れる様工夫している。		